

統合失調症患者に対する退院後の療養環境の整備 ～措置入院により初めて医療に繋がった方への支援～

○須志田佳代¹⁾、伊藤輝¹⁾、尾上夕美²⁾、宮内麻理³⁾、
長谷川久美子⁴⁾、益留真由美¹⁾、坂元昭裕¹⁾

都城保健所¹⁾、南部福祉こどもセンター²⁾、
日南保健所³⁾、高鍋保健所⁴⁾

1 はじめに

○当保健所で対応した年度ごとの措置入院の状況

	R1	R2	R3	R4	R5	計
申請・通報・届出件数	28	13	27	26	31	125
措置入院件数	6	0	6	10	9	31

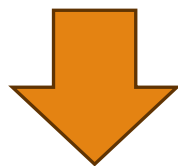
このうち、**未受診または治療の中断**により措置入院に至ったケース**21件(半数以上)**

本人や家族の病識が低く受診に至らなかった、または治療継続できなかった

1 はじめに

本人・家族の
病識の低さ

疾患理解の
不足



服薬や通院を自己判断で中断するケースが多い

家族への支援も含め、服薬・通院を継続
できる環境を整えることが重要である

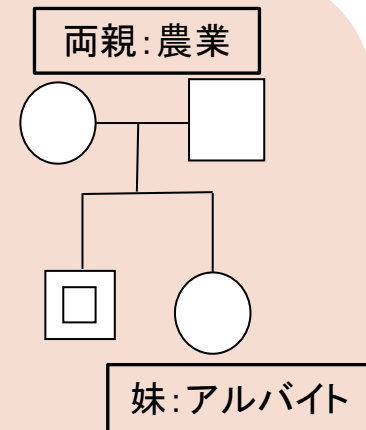
措置入院者退院後支援事業への同意が得られた方のうち1名
について、個別支援の実施、本人の特性に合わせた支援に
ついての考察を行った

2 対象者の概要

20歳代 男性 診断名：統合失調症

生育歴・生活歴

- ・両親と妹の4人暮らし
- ・高校でいじめに遭い、出席日数が足りず退学
- ・就労経験なし 両親の収入で暮らす
- ・10年ほど家族以外との交流なく自宅で過ごす
- ・昼夜逆転の生活 半年間入浴していない
- ・入院1ヶ月前より幻聴・独語・空笑等の精神疾患を疑う症状あり
→未受診



2 対象者の概要

措置入院になった経緯

- ・X年Y月 近隣住民宅に石を投げガラスを割り、近隣住民より110番通報
 - ・警察官に対し「こいつらは悪者や」と怒鳴り、ビニールパイプの棒を振り上げる
- 23条通報となり、診察の結果、A病院に措置入院

入院中の状況

- ・病棟ルールに従い規則正しい生活
- ・週2回入浴 自ら着替えをする
- ・日中は1人でゲームをして過ごす
- ・服薬は看護師管理 → 退院時に注射薬に切り替え

2 対象者の概要

退院前カンファレンス・初回受診時の状況

- ・医師に任意入院を提案されるが、本人・母ともに自宅退院を希望する
- ・保健所職員による支援について、「自宅にあまり人は来てほしくない。」と話す
- ・訪問看護の導入に消極的な反応
 - Y+2月 措置症状消退と同時に自宅退院
同日、B病院へ初回受診

初回受診時の状況

- ・両親とともに来院
- ・本人「通院しないと退院できないと言われたから来た。」と話す

3 活動内容

- ①本人・家族の状況確認
- ②疾患理解の確認と必要に応じた疾病教育
- ③B病院との連携、本人に必要な支援の検討

①本人・家族の状況確認

	退院月	退院1月目	退院2月目
本人・家族の状況	・質問に対する返答なし ・母が代わりに答える ・苛立った口調、貧乏揺すり	・表情乏しい ・意思表示程度の返答 ・一番調子のいい状態を10とすると「(面接時の状態は)9くらい。」と発言	・初回訪問時、本人は部屋でゲームをし顔を出さない ・本人の将来について、母より「心配なことはたくさんありますよね。」と発言あり ・本人「得意なことはない。今のままで何も困らない。」
生活状況	・起床時間遅い ・朝食は家族と別に遅れて食べる	・日中はゲームか、ぼーっとして過ごす	・散歩をするようになった ・入浴は家族の促しで数日おきに行う
	生活パターンは定まらず、起床や就寝時間は日によってばらつきがある		

①本人・家族の状況確認

	退院月	退院1月目	退院2月目
本人・家族の状況	・質問に対する返答なし ・母が代わりに答える	・表情乏しい ・意思表示程度の返答	・初回訪問時、本人は部屋でゲームをし顔を出さない ・本人の将来について、母より「心配なことはたくさんありますよね。」と発言あり ・本人「得意なことはない。今のままで何も困らない。」 ・散歩をするようになった ・入浴は家族の促しで数日おきに行う

保健所の関わり

- ・散歩や入浴、保健所職員との面接等、できていることを支持する声かけ
- ・本人へ、今日できたことの記録を勧める
- ・家族へ、本人にできたことを積極的に伝えてみるよう提案

訪問時間は日によってばらつきがある

①本人・家族の状況確認

	退院3月目	退院4月目	退院5月目	退院6月目
本人・家族の状況	・訪問時間に居間に座って待機挨拶をすると表情を緩ませる ・体調は、小声で「ベリーグッド。」と答える ・面接途中でフードを深くかぶり、母の肩にもたれかかり閉眼する		・訪問時、自ら居間に顔を出し、笑顔を見せる ・職員と一言、二言会話を交わし、部屋でゲームをする	・訪問時、本人は部屋で寝ており顔を出さない ・病院での面接時、途中で目を閉じ、「眠い。」と発言する
生活状況	・家族とオセロやトランプ、将棋をすることもある ・ゲーム以外のことをして過ごす時間も増えてきた 生活パターンは定まらず、起床や就寝時間は日によってばらつきがある			

○ゲーム以外のことをして過ごす時間が増えた

○面接時の本人の態度の変化、母が本人への思いを表出する等の変化

②疾患理解と疾病教育についての反応と関わり

	本人・家族の発言	保健所の関わり	結果、本人・家族の反応
治療薬について	【退院2月目まで】 ・本人 「注射は嫌って言ったやろうが。」 ・母 「注射の量はずっと減らないんですか。」	・担当CWIに情報共有し、 受診時の医師の説明を 依頼 ・診察に同行し、医師の説 明内容を把握	・注射薬から内服薬に変更 ・母は注射での治療に納得 本人の不規則な生活から 服薬できなくなる可能性を 心配する発言あり
		【診察後の面接時】 ・毎日の服薬の必要性を 説明	・本人 「薬くらい飲む。」 ・母 「薬を飲まなくなったら声が 聞こえたりすることもある んですか。」 「薬は私が管理します。」

②疾患理解と疾病教育についての反応と関わり

	保健所の関わり	結果、本人・家族の反応
疾患理解について	【退院3月目】 ・統合失調症の病態の経過を説明するとともに、入院前の振り返りを行う ・確実な治療の継続が回復に繋がることを説明	【疾患教育後、翌月の面接時】 ・本人はパンフレットに目を通していない ・母「(パンフレットは)私だけ見ました。」と申し訳なさそうに苦笑する
入院前の振り返り		・本人 入院前の状況について尋ねると表情が硬くなる。「警察が来て連れて行かれた。」と答える ・母 「元々は大人しい性格だが、入院前はイライラしていることが多かった。」

②疾患理解と疾病教育についての反応と関わり

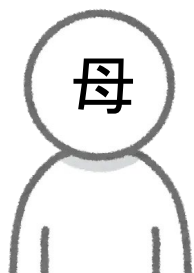
○本人の疾患の受け止めや治療の必要性の理解は不明

○母は治療について積極的に質問する等、
薬に対する抵抗や不安を感じながらも治療の必要性を
理解しつつある

本人の治療参加への主体性はないが、母親の支援により、
毎日の内服や定期受診を継続できている

③B病院との連携、本人に必要な支援の検討

- ・随時、病院での面接時に担当CWに同席を依頼
情報共有や今後の支援方針を行う
- ・就労継続支援事業所や訪問看護の情報提供



ゆっくりゆっくりなのかな、まだ時間がかかるのかなと思う。

○本人は母親の支援により自宅での生活を継続
○新たな支援の導入には至っていない

4 考察

現在の本人の状況

- ・自宅での生活は安心で不自由のない生活
- ・通院や内服も含め、生活全般において母親に依存
母親の支援により、自宅で安定した生活を継続

地域生活の継続のために・・・

- ・疾患の受け入れや主体的な治療参加を促す
- ・日中の活動や就労など、地域での居場所を増やす
・・・社会資源に目を向けてもらう必要性

本人や家族が困ったとき、将来を意識したタイミング等で新たな関係機関への繋ぎができるよう、地域の相談窓口として病院との情報共有や状況確認を継続する必要がある